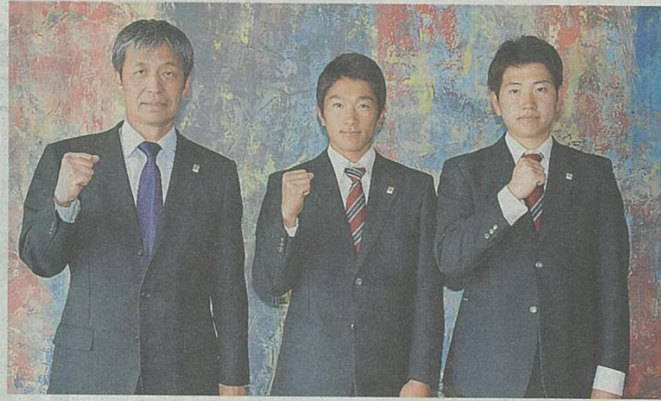


「全日本も頂点目指す」



北東北大学野球春季リーグで優勝した八戸学院大の（左から）正村監督、北島主将、加藤主務

八学大野球部抱負 本社支社訪問

北東北大学野球春季リーグ1部で2013年秋以来、11季ぶり15回目の優勝を果たした八戸学院大学硬式野球部の選手らが28日、東奥日報社八戸支社を訪れた。北島菜人主将（4年）は「聖愛出」は「昨年の悔しさが優勝につながった。全日本大学選手権でも頂点を

目指す」と意気込みを語った。

正村公弘監督、加藤豪人主務（4年）らも訪問した。昨秋2位の八学大は初戦で岩手大に引き分けたが、その後は7連勝で首位に。18日、春秋10季連続優勝している富士大（岩手）と対戦し5-3で競り勝ち、栄冠を手にした。北島主将は高橋優貴投手（現巨人）を擁した昨年メンバーの多くが残ったことも勝因と分析。「チームで

意識改革し弱点だった気持ちの切り替えもできた。やってきたことは間違いではなかった」と胸を張った。

正村監督は「投手2人を中心に攻守がかみ合った。粘り強く戦えたことは選手の自信にもつながっている」とチームの成長を喜んだ。

一行は28日、八戸市庁で小林眞市長に優勝を報告した。

八学大は6月10日から明治神宮野球場などで行われる全日本大学野球選手権に出場する。初戦は同日、東京ドームで仏教大学（京都）と戦う。

（高松拓輝）